

受講番号 18032 学校名 高知西高等学校 氏名 田上悦子

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 1年2組 生徒数 26名
 科目名 英語 単位数(授業時数) 3時間 使用教科書名 POLESTAR English Course

クラスの様子・特徴

英語苦手意識の強い生徒が多く、授業へ集中できない生徒が目立つクラスである。注意が多くなるせいか教師との関係もよくない。週明けテストでも最多の不合格者が出る。

問題の確定

「英語は実技」と考え「音読」を要にして、「和訳先渡し」で取り組んでいるが、クラスの実態に自分のやり方が合っていない。

予備調査

A 授業の観察	B 生徒による授業評価	C 学力データ
語彙インプット・トレーニングがうまく機能せず、覚えようという意欲が見えない。音読や「和訳先渡し」授業の活動にも活気がない。授業中眠ったり私語をする生徒もいる。目標の一つである英検受験への反応も他のクラスに比べて悪い。	アンケートによると生徒は楽しくわかりやすい授業、ALTと多く話せる授業、コミュニケーション重視の授業を期待している。英語の授業のリズムやスピードになじまず、教師ペースの授業になると不満を訴える生徒が多い。	模試の偏差値では学年(普通科)の平均が43.5の中でこのクラスは43.1である。しかし週明けテストでは最多の不合格者を出している。前期中間定期テストでは他クラスよりやや良い成績であった。

リサーチ・クエスチョン

英語苦手意識が強く、英語学習に消極的で、家庭学習をほとんどしない生徒の多いクラスで、積極的に音読に取り組ませるにはどうしたらよいか。

仮説・実践・検証

仮説1	実践1	検証1
「和訳先渡し」のハンドアウトに従って、いつも語彙インプット・トレーニングで授業を始めていたが、もっとクラスに合わせた変化をつけ、いろいろなゲームを取り入れたウォーム・アップをすれば、英語苦手意識の強い生徒が減るのではないだろうか。	スピードや活気(声を出す等)、又は仲間意識等の生まれる楽しいゲームを授業の導入に取り入れ、英語の苦手な生徒や意欲のない生徒も授業に参加し取り組めるようにする。短時間でできるものにする。	学年統一進度の中でゲームを入れるのは予想以上に大変で、実際のゲームはMystery Wordsなど教科書の単語やシステム英単語の復習を兼ねたゲームになってしまい、回数も十分やれず、当然だが成果はあまり見られなかった。教科書や単語帳に関連したもので、生徒はゲームにすると喜んでやってくれた。
仮説2	実践2	検証2
発音をしっかり練習し、語彙インプット・トレーニングのやり方を工夫すれば、家庭で練習する生徒が増えるのではないかと。	綴りを見て発音できない生徒が予想以上に多いので、チェックの仕方を全体で/個人で読んで日本語で/英語で 制限時間内で...等、発音をしっかり練習する過程を大切に、ペアでの練習を増やすことにより、生徒に覚えようとする意欲を持たせる。	時間は取られるが、集中して取り組む生徒が増え、このクラスには必要な時間だったと思う。又週明け単語テストも同じように練習し、テストの不合格者が減ってきた。
仮説3	実践3	検証3
自分の音読の力を実際使ったり定期的に試される機会があれば、積極的に音読に取り組めるのではないだろうか。	生徒同志の活動(ペアワークのTaskなど)を多く取り入れた。英検面接カードでの練習はOC の方でも毎回実施し、英検へチャレンジする気持ちを育てる。また音読を録音することで自分でCDを聴き音読練習する機会を増やす。	苦手意識の強い生徒も、回を重ねる毎に限られた時間内にパートナーを変えながらTaskをこなしていくことに慣れてきて、その前段階の音読にも少しずつ活気が出てきた。教師からの注意も減ってきた。英検にチャレンジする生徒も増えてきた。

研究の成果

クラスの実態に合った語彙インプット・トレーニング、生徒同志の活動を多くした取り組み、実践を想定した活動をすることで、授業への集中力が増し、英語授業のクラスの雰囲気は大分改善されてきた。英検へチャレンジする生徒も、2回目は7名が受験し、3回目はさらに9名が受験したいと表明している。

今後の授業改善の課題

授業態度の改善はあるものの、生徒のアンケートからは英語苦手意識は相変わらず強く、CDの利用や音読の家庭学習に変化は見られない。特に気になるのは、模試における偏差値平均が7月と11月で0.5も下がったことである。データからは長文読解の弱さが目立つ。授業内容のバランスを見直していく必要がある。